

1.2 第二学群

1 第二学群の活動

本学群の教育は、開設以来現在まで、本学群を構成する各学類が計画する教育・学生生活指導を尊重し実施してきている。各学類では、本年度も前年度とほぼ同様、それぞれの教育方針に基づき、教育及び学生生活指導の目標を設定し、教育効果の一層の向上を図るとともに、その自己評価をすべく努めている。

また、本年度も、総合科目については、学群の特色を生かすことを企画し、学群科目として、『生命と文化―「21世紀の科学と生命：暮らしと文化」を考える―』、『心を考える』、『ゲノム生物学と人間』、『研究者のプロフィール』を開講した。第二学群の特色を総合的に発揮し、リベラル・アーツ教育を充実することを目的としたものである。

2 教員の教育業績評価の状況

本学群を構成する各学類は、教育目標に相応する開設科目の精選と体系化に努めるのみならず、各教員の教育業績評価の具体的方法について検討を進めている。また、教官のなかには、独自に授業終了時に調査票を配付するなどの方法による学生の授業評価を実施し、教育方法の改善に努めている者が多くみられる。

3 自己評価と課題

(1) 教育および学生生活指導については、年度当初に掲げた目標に沿う教育効果を上げ得たと考える。

本学群の教育は、他のナンバー学群と同様、学類を基本的単位として行われている。学類を単位とした教育の自己点検・評価は、たとえば比較文化学類、日本語・日本文化学類が教育課程の編成に学生の意向を汲み上げたり、人間学類が教育課程の精選と体系化を推進したり、生物学類、生物資源学類が学生による各授業に対する評価を奨励しているごとくに、各学類ごとに具体的方法が検討され、実施されている。本年度は、全学レベルでの授業評価の結果を踏まえ、各学類、各教員個人で自己点検・評価の取り組みがなされており、自己点検・評価を積極的に進めるということの一つの方向性が生み出されているものと評価できよう。

学生生活指導では、平成13年度に第二学群5学類合同の拡大クラス連絡会が学群長、各学類長、学生担当教官、クラス代表学生の出席のもとに開催され、交通安全等の問題について極めて有意義な意見交換が行われた。平成14年度、15年度は、残念ながら実施できなかったけれども、学生生活指導における一つの新しい試みであったと評価できるので、今後もまた、これに類する学生と教官との意見交換の場を持ちたいと思う。

(2) 今後の課題としては、各学類における自己点検・評価について、学群全体でその成果と問題点を相互に批評するなどの手法を開発・確立し、その具体化に取り組んでいくことが必要である。

今日、人類は生命倫理や地球環境の問題など取り組むべき重要な課題を担っている。そしてかかる課題の解決には、従前のディシプリンの枠を超え、広い視野を持ったアプローチが必要であり、その意味において本学群が果たすべき役割は今後さらに増大するであろう。また本学群では、リベラル・アーツ教育を充実する上からも、各学類のカリキュラム等についての相互理解を深めることを通し、学類の固有性を活かしながら、学群が一個のミニ・ユニヴァシティとして、輝ける存在となるような方向性をめざすことが望まれている。